伊東またメガソーラー計画

鎌田地区で40メガワット規模

八幡野地区の大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設計画への反対運動が起きている伊東市で、同地区とほぼ同規模の発電容量約40メガワットのメガソーラー建設計画が約8キロ離れた鎌田地区でも進行していることが17日、関係者への取材で分かった。八幡野地区とは別の事業者による計画で、大規模な開発行為を伴う見通し。2020年4月の発電開始を目指しているという。

（伊東支局・岩下勝哉）

鎌田地区で計画を進めているのは再生エネルギー事業などを手掛けるブルーキャピタルマネジメント（東京都港区）。松川湖の北西側の山林に92ヘクタールほどの事業用地を設定し、うち約49ヘクタールで森林伐採や土地造成を行う。約14・5万枚の太陽光パネルを並べる計画という。

同市によると、市は1月までに同社から土地利用に関する事前申請を受け付けた。同社は県や市に対し、今夏ごろに関係法に基づく事業許可の申請を行う予定。既に、一部の地元住民に対して事業計画を知らせ、今後も説明会を開催していくという。

同社の担当者は、取材に対し「計画に対して住民が不安に感じる部分を聞いていきたい。説明会を繰り返して開き、理解を得ていきたい」と話した。

同社によると、八幡野地区で計画を進める伊豆メガソーラーパーク合同会社（東京都）との関わりはないという。

八幡野地区 反対運動さなか…

鎌田区長「水源汚れる」

また伊東市かー。同市の鎌田地区で17日、明らかになった大規模太陽光発電所（メガソーラー）の建設計画。八幡野地区の計画への反対運動が活発化する中、市民からは「伊東は業者から狙われているのではないか」との声も聞かれ、さらなる混乱を招く可能性がある。

鎌田地区の計画地は市民の飲料水が採取される松川湖の近く。鎌田区長の大石勝さん(74)は「開発により水源が汚れてしまう。地盤が弱く土砂崩れも怖い」と不安を吐露。「地域一体となって強く反対していきたい」と語気を強めた。

八幡野地区の計画への反対運動を主導する市民団体代表の関川永子さん(50)は「発電所建設のために大規模な森林伐採を行うのはおかしい。開発業者に対する市の姿勢が甘いのではないか」と指摘した。

当社指定商品 最短30分でお届け
ビック超速便
ビックカメラ